様式2　**令和3年度　清瀬市立清瀬第二中学校　　学校評価表**

学校教育目標

愛情　より豊かな　心をつちかう　　学力　より深く　自ら学ぶ
勤労　よりよくはたらき　責任をはたす　　健康　よりたくましく　心身をきたえる

目指す学校像（ビジョン）

【目指す学校像】　「笑顔とあいさつ　そして　ありがとう」が溢れる清瀬二中
【目指す児童・生徒像】「自分で考えて行動する力」を持つ生徒
【目指す教師像】　「生徒が主役であることを大切にし、感謝を忘れず、教師であることを誇りに思う教員」

育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動

・生涯学び続ける力・人間性の育成
・ふるさと清瀬を誇りにし、持続発展の主体となる力
・生きて働く知識・技能の育成
・考える力、判断する力、表現する力
・育てたい4つの心「感謝する心」「自他の発言、意見を大切にする心」「共に学ぶ心」「社会の中で活きている意識」
・学校支援本部との連携

前年度までの学校経営上の成果と課題

・学力向上において、各教科における帯活動などの二中スタンダードは定着しているが、本年度から導入されるGIGA対応の授業を進めることが必要である。
・豊かな心育成には、学校や学年の行事がなどが活動場面が必要だが、前年度はコロナ禍で中止となった、本年度は、感染予防を取りながらの実施が必要である。
・健やかな体の育成で、給食を要とした食育をすすられたが、体育において感染予防のため、水泳指導等実施できなかった課題もあり、本年度は感染予防を図りながらの実施が課題である。

柱	具体的方策	自己評価			学校関係者評価	次年度以降の改善方策
		評価		課題及び次年度以降の改善方策（案）	学校関係者による「自己評価」についての評価	学校関係者評価の結果を踏まえた改善方策
		取組指標	成果指標			
確かな学力の向上	授業の課題解決のために考える時間をとり、話合い活動を通して、自分が学んだことを活用、表現する場面を設ける。			新型コロナウイルス感染症予防を行いながら、昨年度に比べると各教科授業や総合的な学習の時間、学活等で話し合い活動などの協働学習を実施し、各教科の生徒授業評価も概ね80％を越えている。来年度は、タブレットを利用した話合い活動などを試みる。	新型コロナウイルス感染症対策による制限がある中、昨年度の経験を生かして、授業を進めているとのことです。オンライン授業を進めていくにあたり、教員も生徒もお互いにとまどいや不安があったと思いますが、その中で、このやり方が良かったなど、改善に向けての気づきも沢山あったと思います。新たな時代の教育スタイルへの改善に期待をします。	各教科の学習のみならず教育活動全般を通して、話合い活動などの協働学習を行い、自分が学んだことを相手に伝えあう学び合いをより進めて、学ぶ力を育成する。また、GIGAスクール構想など新しい教育スタイルも取りいれていく。
	ICT機器の校内研修会を進めて、タブレットPCを取り入れた授業の実施を試みる。			コロナ禍の影響によるオンライン授業への必要性から年度当初の想定よりもGIGAスクールの取り組みが促進され、研修などが進んだ。教員間での使用の差が出てきたことや器材の整備不足などが課題である。	教員間で、ICT機器の校内研修会を開き、授業への活用など日々努力されていることに本当に有難いと感じています。学校に一人一台のパソコンが導入されて、授業への活用が始まり、また市内全学校のオンライン授業の実施など、コロナ禍による急速な教育改革となり、大変だと思いますが、これからの時代に向けての新しい教育スタイルに期待をします。	コロナ禍の対応に留まらずに、今後もGIGAスクール構想を継続し、ICTを利用した教育スタイルを推進する。そのために教員の研修や計画的な設備の充実を進める。
豊かな心の育成	学校・学年行事、学級活動、委員会活動、さらに授業展開において、生徒が主体的になるような指導を意識し、計画する			学校行事はコロナ禍の状況に合わせて実施した。生徒会活動等の校外活動は自粛したが、校内から発信できるボランティア活動を進めることができた。初めて、清瀬高校生徒会との共同活動を実施することができた。学校から外へ出ての活動が来年度の課題である。	昨年度は全ての学校行事が中止となり、非常に残念でしたが、本年度は、感染予防対策を講じながら、実施したことを嬉しく思います。無観客での実施となった運動会で地域ボランティアの方々による動画撮影と配信ができたことはよかったと思います。来年こそは完全実施を期待します。	新しい生活様式を念頭に置いて、学校行事や学年行事、授業公開等は、社会の感染状況を判断し、感染予防を図りながら、そして地域保・護者の方のご協力を得ながら実施をしていく。また、生徒が主体となる取り組みについて、徐々に校外での活動も復活させていく。
	いじめ調査や学級環境適応尺度調査を実施して、学級経営や面談に活用する。			学期末に学級環境適応尺度実施して学級経営への利用を進めた。いじめ等に関する学校の対応についての生徒評価は、肯定的な意見が85％を超えているが、生徒個人の分析などへの活用を進めたい。	スマホやSNSの発達で、生徒同士のトラブルは見えにくくなっていると聞いています。難しいい問題ではあるが、中学校と年齢が近い大学生や高校生から、スマホやSNSのトラブル対応について話してくれる講演会のような企画などを行い、対応をしてほしいと思います。	いじめの未然防止、早期発見、早期対応をこれからも心がけるとともに、特別な教科道徳を要として、生徒たちの豊かな心の育成をはかる。また、SNSに関しては、教員の指導だけでなく、生徒会が中心となって作成した生徒会SNSルールを利用しての呼びかけなどを進めていく。
健やかな体の育成	コロナ禍での対策を図りながら、出来ることを実施していく。部活動では、技術向上に繋がる外部指導員の活用をする。			まん延防止期間など部活動中止期間があったが、昨年度の経験を基に感染予防対策をとりながら、活動をすることができ、外部指導員の活用した吹奏楽部は都大会で銀賞を取ることができた。生徒評価は90％であったのは、活動ができたことの喜びであると考えられる。	部活動は生徒にとって、学校生活の中で大きなものであるが、本年度も感染症予防のため、部活動休止期間があり、充実した活動とはならなかったと思います。教員の働き方改革に関連して部活動のあり方も変わってくると思いますが、工夫をして、充実した活動を期待します。	清瀬市教育委員会が作成した部活動指針に基づき、生徒や教職員の負担が過多にならないように、部活動時間の短縮や練習方法に取り組む。また、コロナ禍においては、感染予防の対策をとり、社会状況を見ながら、無理のない活動を行う。
	栄養に関する授業や食育に関する情報、健康に関する情報などを発信する、また自分の生活を見つめる活動を実施する。			栄養士による授業や給食めもなどの食育活動や保健給食委員会の取り組みにより、給食残菜率の平均を5％前後にすることができた。生徒評価は95％を超え、生徒も活動成果の実感を持つことができた。	中学生にとって食育は大切な学習で、給食の残菜率が年々改善されているのは良いことだと思います。生徒に向けての取り組みだでけなく、家庭への情報発信も大切で、栄養士さんによる食育関連の動画作成するなど、広く発信していることは、評価したいと思います。	食育に関する各家庭の意識を高めるため、便りやHPなどでの情報の発信を続けていく。また、保健給食委員会などを中心として、生徒が主体となった食育の取組みも継続して実施する。
特別支援教育の充実	特別支援委員会を中心とした情報交換や検討会を毎週実施し、外部のアドバイザー等によるカンファレンス等を実施する。			校内委員会にサポートルームの教員も参加し、生徒学習状況等の情報共有を図り、アドバイザーなどを活用し、理解を深めることができた。近年、支援を望む生徒、ご家庭が増えており、授業内での支援の方策が課題である。	校内委員会で共有された情報が、それぞれ個々の生徒への支援にスムーズつながればと願います。課題もあると思いますが、サポートルームとの連携、生徒理解、学生ボランティアの活用を充実させていくことが大切だと考えます。	サポートルームとの連携もさらに深め、授業内での支援について、教員間での情報交換、そして生徒理解を深めていく。また学生ボランティアなどによる数学少人数などでの授業支援や、居場所作りなどを進めていく。
	ICTを活用するなどの学習方法や学習環境の取組を試みる			サポートルームの学習などにもICTの活用が始まり、各教科授業や学校全体でもGIGAの活用が進んできた。支援が必要な生徒の教科授業での利用方法を試行していくことが、今後の課題である。	支援が必要な生徒については、小学校との連携をうまく進めて、進学時に戸惑いが無いようにして欲しいいと思います。GIGAスクールによる授業でのICT活用については期待しています。また、学生ボランティアの活用を充実させてほしいです。特に数学少人数教室や長期休業中の自習・補習教室などでの活用に期待します。	特別支援専門員や特別支援コーディネーターを中心として、小学校との支援の引き継ぎを丁寧に行い、さらに担任やサポートルーム担当との連携を深めていく。また、ICTを活用したた支援方法も検討していく。また学校支援本部の協力を得て、学生ボランティアの活用を進めていく。
本校の特色	学生や保護者・地域の方のボランティア活動を実施する。			学校行事や各種検定でのワンデーサポートや花ボランティアによる環境整備、学生ボランティアによる学習や図書室支援など、保護者、地域の方々の協力があり、保護者評価は85％を越えていた。今後も学校支援本部の協力のもとに継続していく。	学校と保護者、地域の方々をつなぐ学校支援本部の役割がますます重要になると思います。コロナ禍にも関わらず、多くの保護者や地域の方々が多数、ボランティアに参加してくださったことは嬉しく思います。これからも多くの地域の方々が教育活動に参加をしてくれることを願います。	今後も、学校支援本部の協力を得て、教育活動へボランティアの皆さんの支援を受けて教育環境整備を続け、他の教育活動にも地域人材のを活用を進める。
	学校、学年だより等の発行と、HPを利用して情報発信をする。			学校だより、学年便り等の発行数は総計200号を超え、HPの更新回数については、平均で週2回以上は達成することができた。保護者による評価は85％を越えて、昨年度より改善した。さらに内容の充実を進める。	コロナ禍で、授業参観や学校公開が制約される中、学校だよりや学年だより、HPなどによる報発信はより大切になってきており、二中HPの充実ぶりは、保護者や地域の二中への理解につながっています。これからも情報発信に期待します。	学校だよりや各学年便りの発行と、ホームページの更新により、保護者や地域への情報発信を継続していく。